

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年 6月24日

【評価実施概要】

事業所番号	773100649		
法人名	株式会社 まちづくり小野		
事業所名	グループホームさくらんぼ		
所在地	福島県田村郡小野町大字小野新町字知宗57-4 0247-71-0035		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年5月30日	評価確定日	平成20年7月11日

【情報提供票より】 (平成20年3月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 7人, 非常勤16人, 常勤換算17.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000と34,000 円	その他の経費(月額)	16,000と17,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石塚医院、公立小野地方総合病院、パル歯科クリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

2ユニットのホームは国道から少し高めに位置し、緑を背にした事業所の敷地も広く、道路から入っていることから、敷地内を散策するにも安全な環境といえる。消防署の分署が隣にあり、近くには警察署、役場、大型店もあるという立地条件から、買い物などにも便利で生活を楽しむことが出来る。利用者が敷地内で野菜を作るなどし、収穫したものを近所の方におすそ分けするなど、地域との交流も自然体で行っている。職員体制も若い方とベテランとの年齢のバランスもとれており、ホームの運営や地域との交流にも意欲的に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 評価結果を受けて具体的に取組まれており、改善されていることが確認できた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員が目を通し意見を述べる機会があった。また、評価の意義に関して理解しており、緊張しつつもオープンな姿勢が伺われた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) こしばらく開催がなかった。新しいグループホームの開設準備のためであったが、今後は開催日時を定例化するなど委員が事前に予定しやすい工夫や、従来の行事の日に開催し実際に参加していただくなどの工夫を、継続して行って欲しい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) なかなか家族の方から意見や苦情を述べにくい土地柄でもあり、書面での報告の他にも日頃から気をつけて声がけをしている。関係がよい様子が、調査時にも来所していた家族とのやりとりから感じられた。今後は、具体的な事柄や場面に関して現状を報告しその際に意見や希望を聴取されれば、更に運営に活かしていけることと思われる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 立地条件からも孤立することなく地域との関係を保っている。日常的に隣の消防分署の署員へ差し入れをしたり、地域の一人暮らしの方へ野菜を届けたり、また地域の行事にも積極的に参加している。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念作成に当たり、職員からの意見も取り入れ作成している。地域社会とのつながりを大切に考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に掲示しており、職員は内容についても具体的に理解し説明することが出来た。共通のものとしてとらえられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行政区の行事への参加は積極的にしている。また近隣の方々との交流も収穫した野菜をあげたりと活発に行っている。特に隣の消防署分署や森林組合の職員とは日常的に交流があり、安全と専門的指導を受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善項目に沿い、重度化や終末期に関する同意書を作成し全員分同意を得た。職員全員で改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度前半は開催したものの、後半は新施設の開設準備とも重なり、開催に至っていない。また、会議メンバーに対し、参加を呼びかけることに負担を掛けるのではという迷いがみられた。行事開催日に実施した点は良かったと思う。	○	今後はメンバーが出席しやすい日時を定例化して年間計画に組み込むなどの工夫が必要かと思われる。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来所時に話をしたり、担当者が利用者の日常生活の頑張っていることなどを近況報告として送付している。金銭管理についても、領収書を添付した明細書と請求書を送付している。また文面についてはスタッフ同士でチェックしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から職員から声がけしていると言うが、ほとんど苦情といったものは挙がっていない。	○	土地柄もあり、家族から積極的な不満等がでにくいと思われる。よって、職員自身が迷っていることなど具体的に提示して意見を求めていくなどをしてはどうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は系列グループホームの開設により、異動があったが、通常は極端な異動は行わないように心がけている、また異動する場合はお便りに掲載したり、話をするなど、理解してもらっている。新人職員の場合は夜勤は3ヶ月間は行わず、段階を踏んで馴染んでもらうようにしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へも積極的に参加させており、研修に関する情報も張り紙などで職員に周知されている。また研修結果はレポートとしてまとめられ、職員全員が目を通している。内部実技研修、新人研修も定期的に行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のGHとの合同の勉強会や交流を通じて、体験報告などの話し合いなどを行っている。また地域主催のグループホーム以外の事業所との研修会等にも参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活経験を大切にし、利用者の得意なことからは職員も学ぶなどしている。利用者のその日の気分を観察しながら、穏やかに過ごせるように自然体で接している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントやその後の聞き取り、また生活場面においても本人からの意向を述べやすいように、待つことや具体例を示すことなどを行っている。また表情を観察しくみ取ろうとしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	基本的な介護計画は担当職員と計画担当者が作成するがその際に、職員全員から気づきシートを用いて、利用者の生活場面の情報やケア提供時の情報を集めている。また、原案に基づいて職員が全員参加できるような日程で担当者会議を開催し、検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しをして新しい計画を作成しているものの、計画書の期間がきれてしまう(担当者会議の開催が遅れてしまう)場合もみられた。また、利用者の状態の変化に応じて計画を見直し、申し送り簿にて徹底を図っているが、個別計画の変更には至っていない。	○	計画的に担当者会議の日程を組み、介護計画書の期間にずれを生じさせないことが大切である。また、せっかく取り組んできた新しい介護計画については、きちんと計画書の2として記載し、いつからなぜ変更したかについて、個別記録に経過を残していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が同行して受診し、その際の医師とのやりとりや処方の変更などを記録する様式があり、情報を取り出しやすくしてある。また記録類もきちんと保管されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	前回の評価結果を受け、全員の身元引受人から同意書ももらっている。しかし、その説明の過程でもどのように記載すればよいか分からない(方針を決めかねる)等の声が聞かれたという。	○	お元気な利用者の姿で同意したことと、実際に終末期を迎えた場合には、意向は変化することもふまえ、個別に具体的な状態に合わせた同意を求めていく。また、定期的に同意書を提出してもらい、方針の見直しをしていくことも可能ではないか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	昼食前後の排泄介助の場面もさりげない言葉掛けと誘導で、他の方にトイレへ行ったと気づかせないなどプライバシーへの配慮があった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に畑の作物を収穫したり、日替わりで行っているレクリエーションへの参加も強制することなく、利用者のペースで進められている。昼食後、歌を歌いたいという利用者に応え、手拍きをしたり、他の方へも得意の歌を聴かせて欲しいという働きかけがみられた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニット毎に特徴があって、雰囲気は異なるものの一人ひとりが役割を持っており、食事の用意や後片付けをしたり、おしゃべりを楽しんでいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴が出来るよう利用者毎に曜日の指定をし、随時入っている方は1～2名の状況である。時間帯は午後から夜間に掛けて好きな時間に入ることが出来ている。	○	これから暑い季節を迎えることもあり、洗髪を含む清潔を目的とした入浴ではなく、さっと汗を流すシャワー浴や足浴手浴といった形の入浴の機会を増やすなど、回数を増やす取り組みをして欲しい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の方々の得意な面を活用し、それぞれの役割が出来ている。部屋や廊下にも利用者の作品が飾られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	お花見、秋の紅葉など、季節の行事には全員が参加している。また新しく出来た系列のグループホームをお互いに訪問しあうことも楽しみにしている。近くのスーパーなどへの買い物も職員と一緒に行くこともある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。外に出るときは職員がさりげなく一緒に行動している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の防災訓練に参加している。消防署が隣、警察署も近いということから、心理的には安心な環境であることに、甘えることなく、事業所独自の訓練も必要と感じて取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量は、個人に合わせており、摂取量のバランスにも配慮している。水分は食事、おやつのお茶やその他の飲み物で摂取しているが、利用者個々の病気や状態に合わせた摂取方法も考慮するとなお、今後なお一層安心と思われる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはユニットの個性が活かされたカレンダーや利用者の作品が置かれている。それぞれの居室の入り口には利用者と担当職員一緒に写真がそれぞれのボードに貼られており、とても和やかな雰囲気であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室によっては非常に個性的で家庭的であるものの、ベッド以外ほとんど何もない部屋などもある。また、レンタルベッドが健康な人が使う折り畳み式で床からの高さが負担になる可能性のある低さであった。	○	更に家族へ使い慣れた物品を持ち込んでいただく声かけと共に、現在使用しているベッド等の状態が本人に合っているか、危険はないかに気を配り、早めに対処方法を本人と一緒に検討していく。

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームさくらんぼ

記入担当者名 白岩 友子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。